

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02001

研究課題名（和文）戦後大衆社会の形成と出版メディア 戦時中との連続性と戦後民主主義に着眼して

研究課題名（英文）Postwar Mass Society Formation and Print Media: Focusing on the Continuity with the War Years and on Postwar Democracy

研究代表者

阪本 博志 (SAKAMOTO, Hiroshi)

帝京大学・文学部・教授

研究者番号：10438319

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の主な成果は、次の4点である。第1に、大宅壮一の戦時中の活動と戦後の活動の連続性について論じた単著を刊行した。第2に、1950年代を代表する大衆娯楽雑誌『平凡』に、戦後民主主義的要素と戦時中のプロパガンダと重なる要素の両方が存在することを明らかにした論考を発表した。第3に、活字メディアでの戦後民主主義において重要な存在である『朝日新聞』の「ひととき」欄を創設した影山三郎の、月刊誌における全150回の連載をはじめ著書未収録の著作物を集成した図書を、復刻・刊行した。第4に、高度経済成長期の勤労青少年サークルの刊行物を復刻・出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の重要な意義は、次の3点である。第1に、大宅壮一をテーマにした初の学術書を刊行した。大宅については、晩年の重要な連載であるにもかかわらず全集未収録多数であった「サンデー時評」全244回を初めて編集・復刻した。第2に、1950年代の大衆娯楽雑誌『平凡』に関する新たな知見を発表した。第3に、その重要性がこれまでの指摘されてきたサークル「希交会」の機関誌等、高度成長期の勤労青少年サークルの刊行物を復刻・出版した。以上のように、後進の研究者が参考にできる研究成果物を発表するとともに、貴重な文献資料を後世にのこすことができた。

研究成果の概要（英文）： My research has achieved four key outcomes. First, I released a publication on the continuity between Heibon, a popular magazine of the 1950s, which included both postwar democratic elements and elements that overlapped with wartime propaganda. Second, I published an essay revealing that Heibon, a popular magazine of the 1950s, included both postwar democratic elements and elements that overlapped with wartime propaganda. Third, I released a reprint of a compilation of literary works of Saburō Kageyama that were not included in his series of essays and other works. Kageyama had started the Hitotoki column in the Asahi Shimbun, which played an important role among print media in promoting postwar democracy. These literary works include all 150 articles that ran in monthly magazines. Fourth, I released a reprint of the publications of a working-youth association that operated during the years of rapid economic growth.

研究分野：社会学

キーワード：歴史社会学 根っこ会 メディア史 ライフヒストリー 大宅壮一 『平凡』 『明星』 影山三郎 希交会 若い

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、それまでの私の以下の研究を背景に構想された。

### (1) 『平凡』

百万部以上の発行部数を誇った、1950年代を代表する大衆娯楽雑誌『平凡』について、同誌をテーマにした初の学術書である、拙著『『平凡』の時代 1950年代の大衆娯楽雑誌と若者たち』(昭和堂)を、2008年5月に上梓した。これにより、2009年に第30回日本出版学会賞奨励賞・第18回橋本峰雄賞を受賞した。

2010年10月には、1950年代に黄金時代を迎えた『世界』と同時代の『平凡』を対比した、拙稿「『平凡友の会』と六〇年安保 電子出版元年・安保闘争50周年の年に『平凡』と『世界』を通して考えること」(『d/SIGN』第18号)を発表した。

2015年7月には、1950年代の百万部雑誌『週刊朝日』『サンデー毎日』『平凡』について、拙稿「近現代日本の大衆社会化と活字メディアの読者参加企画 一九五〇年代『週刊朝日』の「表紙コンクール」「文化講演会」を中心に」を、谷川建司・須藤遙子・王向華編『東アジアのクリエイティブ産業 文化のポリテクス』(森話社)において発表した。

2018年3月には、資料紹介「一九五〇年代における雑誌『明星』の連載小説とそのメディアタイアップ展開(付・一九五〇年代『明星』連載小説一覧)」(『大衆文化』第18号)を発表した。

### (2) 大宅壮一

戦間期に活動を開始し1950年代から1960年代にかけて国民的評論家として活躍した大宅壮一(1900-1970)のライフヒストリーを論じた初の学術論文「大宅壮一研究序説 戦間期と昭和三〇年代との連続性/非連続性」を、『文学』2008年3・4月号において発表した。

これに続き、1950年代～1960年代から占領期、戦中へと大宅壮一の活動についての研究成果を発表した。

具体的には、2010年3月に、拙稿「大宅壮一の対談に関する覚書 『週刊文春』連載「大宅壮一人物料理教室」「大宅対談」を中心に」(『宮崎公立大学人文学部紀要』第17巻第1号)を発表した。2011年3月に、拙稿「占領期の「大宅壮一」 「大宅壮一」と「猿取哲」」単著、(『Intelligence』第11号)を発表した。2012年3月に、拙稿「大宅壮一の「再登場」 1950年刊行の『日本の遺書』『人間裸像』に着眼して」(『出版研究』第42号)を発表した。同年9月に、拙稿「一九五〇年代『週刊朝日』と大宅壮一 連載「群像断裁」をめぐる」(吉田則昭・岡田章子編『雑誌メディアの文化史 変貌する戦後パラダイム』、森話社。増補版2017年4月)を発表した。2015年12月に、拙稿「大宅壮一の戦中と戦後 ジャワ派遣軍宣伝班から「亡命知識人論」「無思想人」宣言へ」(『現代風俗学研究』第16号)を発表した。『東京人』2016年2月号に、拙稿「没後四十五年「マスコミの王様」大宅壮一の知られざるプロパガンダ映画」を発表した。2018年1月には、拙稿「大宅壮一 ふたつの大衆社会化状況を生きた、「無思想」の「マスコミの王様」(土屋礼子・井川充雄編著『近代日本メディア人物誌 ジャーナリスト編』、ミネルヴァ書房)を発表した。

これらのほか、2014年3月に、資料紹介「中学生時代の「大宅壮一」 時事新報社発行の雑誌『少年』への投稿活動と学業成績」(『大衆文化』第10号)、2015年3月に、同「旧制茨木中学校における一九二〇年のストライキと大宅壮一」(『大衆文化』第12号)を発表した。

### (3) 勤労青少年サークルと影山三郎

高度経済成長期最大の勤労青少年サークル「若い根っこの会」をテーマにした初の学術論文である、拙稿「戦後日本における「勤労青年」文化 「若い根っこの会」会員手記に見る人生観の変容」(『京都社会学年報』第8号)を、2000年12月に発表した。

2008年5月に上梓した上記拙著『『平凡』の時代』において、十万人以上の会員を擁した同誌読者組織「平凡友の会」についても明らかにした。

『朝日新聞』家庭面の「ひととき」欄に1954年4月に掲載された女中の投書をきっかけに同年7月に結成された、女中サークル「希交会」の機関誌『あさつゆ』等の資料を、2017年9月より、拙編・解題『高度成長期の女中サークル誌 希交会『あさつゆ』』全10巻(金沢文圃閣)として復刻・刊行を開始した。この過程で「ひととき」欄を開設した影山三郎(1911-1992)の、女性のジャーナリズム参加という、活字メディアにおける戦後民主主義という点からの重要性を再認識するにいたった。

### (4) 江戸川乱歩

本研究開始前より、共編著『江戸川乱歩大事典』の編纂等に携わっており、江戸川乱歩(1894-1965)をとおり戦間期・高度経済成長期の「大衆社会化状況」への理解を深めていた。

## 2. 研究の目的

本研究は、1950年代における大衆社会の形成と出版メディアとの関係について、歴史社会学的研究を行うものである。この過程では、次の3点に留意する。第一に、1920年代の初期的大衆社会化状況との連続性である。第二に、戦時中との連続性である。具体的には、メディアの「送り手」側の戦時中の活動と戦後の出版活動との繋がりである。第三に、1950年代の出版メディアにおいて見られた戦後民主主義である。これらのなかでとくに第二と第三の点に着眼することで、1950年代の出版メディアにおける、戦時中と連続する要素と戦後民主主義的要素との様相を、明らかにする。

## 3. 研究の方法

国立国会図書館・公益財団法人大宅壮一文庫ほかでの文献調査をおこなった。影山三郎を直接知るかたほかへのインタビュー調査をおこなった。研究期間中の2019年3月に有馬学氏が会長を、石川巧氏・私が幹事を務める、「雑誌文化研究会」を結成した。ここにおいても研究活動をおこなった。

## 4. 研究成果

本研究の成果は、以下の4点である。

### (1) 大宅壮一

2018年7月に開かれた2018年度三田社会学会年次大会において、「大宅壮一とそのルポルタージュに関する考察」と題した口頭発表をおこなった。

同年10月に開かれた、第6回「東アジアと同時代日本語文学フォーラム」2018上海大会において、「出版メディアの「送り手」の戦中と戦後 大宅壮一『この目で見たソ連』(光文社[カッパ・ブックス]1962年)をめぐって」と題した口頭発表をおこなった。これは、1962年に「カッパ・ブックス」の1冊として刊行された大宅壮一『この目で見たソ連』を取り上げ、「カッパ・ブックス」を創刊した)神吉晴夫と大宅壮一の戦時中の活動と戦後の活動との連続性を考察したものである。

同年12月には、拙稿「文庫(ふみくら)をひらく 公益財団法人大宅壮一文庫」(『書物学』第14巻)を発表した。

2019年9月に、上記「大宅壮一とそのルポルタージュに関する考察」を発展させ、『週刊朝日』等の週刊誌・『平凡』『明星』『文藝春秋』『世界』『カッパ・ブックス』といった1950年代の出版メディアのなかに、大宅壮一の活動を位置づけ(彼の戦時中の活動も踏まえ)考察した拙稿「大宅壮一の「熱い戦争」と「冷たい戦争」 海外ルポルタージュなどの活動をめぐって」を、鳥羽耕史・山本直樹編『転形期のメディアロジー 一九五〇年代日本の芸術とメディアの再編成』(森話社)において発表した。

そして、2019年11月に、大宅壮一をテーマにした初の学術書である、拙著『大宅壮一の「戦後』』を上梓した。ここにおいて、大宅壮一の戦時中の活動と戦後の活動との連続性を論じた。

大宅壮一没後50年の年となる2020年の9月に、大宅壮一著拙編・解題『編集復刻版 サンデー時評』全2巻(六花出版)を刊行した。これは、大宅壮一の最晩年の連載「サンデー時評」(『サンデー毎日』1965年10月17日号~1970年11月1日号)全244回に、私が作成した「主要人名索引」「解題」を付したものである。同連載はその重要性の大きさにもかかわらず『大宅壮一全集』には190回分の再録となっており、完全なかたちでの単行本化は、これが初めてである。

大宅壮一の最晩年の活動については、1967年から1970年まで主宰した「大宅壮一東京マスコミ塾」についてまとめた、拙稿「没後50年 大宅壮一東京マスコミ塾でめざした「人間牧場」とは。」を、『東京人』2020年12月号において発表した。

大宅壮一文庫創立50年となる2021年5月には、拙編『大宅壮一文庫解体新書 雑誌図書館の全貌とその研究活用』(勉誠出版)を刊行した。また、拙稿「解題 “雑誌人間” 大宅壮一の“雑誌図書館” 大宅壮一文庫」(公益財団法人大宅壮一文庫編『創立50周年記念 大宅壮一文庫所蔵総目録』)を発表した。

『ユリイカ』同年9月号に、拙稿「大宅壮一と立花隆 「知的労働の集団化」・大宅文庫と「田中角栄研究」」を発表した。

2022年2月に、拙稿「大宅壮一『チャーターリズム講話』 資料としての雑誌と「知的労働の集団化」」(『メディア史研究』第51号)を発表した。

同年7月に、拙稿「大宅壮一と戦後マスコミ」(筒井清忠編『昭和史講義【戦後文化篇】(上)』、筑摩書房)を発表した。

2023年2月に、「大宅壮一が遺したもの 「知的労働の集団化」と「人間牧場」」と題した口頭発表を、日本出版学会雑誌研究部会においておこなった。

## (2)『平凡』

2019年10月に、「出版メディアの「送り手」の戦中と戦後(2) 1950年代の大衆娯楽雑誌『平凡』をめぐる」と題した口頭発表を、第7回「東アジアと同時代日本語文学フォーラム」2019台北大会においておこなった。

2021年10月に、「『平凡』の時代」再考 編集長・清水達夫と報道技術研究会に着眼して」と題した口頭発表を、早稲田大学20世紀メディア研究所第150回研究会においておこなった。

そして、2022年7月に、拙稿「『平凡』と大衆文化」(筒井清忠編『昭和史講義【戦後文化篇】(下)』、筑摩書房)を発表した。ここにおいて、『平凡』に、戦後民主主義的要素と戦時中のプロパガンダと重なる要素の両方が存在することを論じた。

競合誌『明星』についても、『東京人』2022年9月号に、拙稿「思春期の読者に寄り添い続けて70年「明星」創刊のころ。」を発表した。

## (3)影山三郎

2019年10月に、影山三郎著拙編・解題『朝日新聞家庭面「ひととき」欄の三十年 戦後マスコミ読者論』全3巻(金沢文園閣)を刊行した。これは、雑誌『マスコミ市民』1968年10・11月号から1982年6月号まで150回にわたり連載された「戦後マスコミ読者論」をはじめとする、著書未収録の影山三郎の著作物を編纂したものである。

2022年3月には、影山三郎をテーマにした初の学術論文である、拙稿「影山三郎とアジア 東京帝国大学在学時と立教大学在職時をつなぐもの」(『大衆文化』第26号)を発表した。

## (4)勤労青少年サークル

2017年度に引き続き、『高度成長期の 女中 サークル誌 希交会『あさつゆ』』の第3回配本(第7巻・第8巻)を2018年9月におこない、第4回配本(別巻第1巻・第2巻)を2019年3月におこなった。これをもって、全10巻が完結した。

希交会ならびに『あさつゆ』については、2019年4月3日発売の『東京人』5月号に、「「希交会」発足より65年「女中」サークル誌「あさつゆ」に見る戦後民主主義。」を寄稿した。

2020年6月から12月にかけて、「若い根っこの会」の創始者であり、終生会長を務めた、加藤日出男(1929~2019)の1957年から1965年にかけての著書から8点を復刻した、加藤日出男著拙編・解題『「若い根っこ」の生活記録 高度成長期の勤労青年サークル 単行本編』全4巻(金沢文園閣)を刊行した。

2022年11月には、拙編『シリーズ紙礫16 女中』(皓星社)を刊行した。この解説は、「若い根っこの会」「希交会」の刊行物を活用・紹介したものとなっている。

上記『「若い根っこ」の生活記録 高度成長期の勤労青年サークル 単行本編』に続き、「若い根っこの会」の初期(1960年~1962年)の機関誌を復刻した拙編・解題『「若い根っこ」の生活記録 高度成長期の勤労青年サークル 雑誌『若い根っこ』編』(金沢文園閣)を刊行するべく、準備を進めた。その過程では、2023年9月に、第11回「東アジアと同時代日本語文学フォーラム」2023パリ大会において、「高度成長期の勤労青少年サークル「若い根っこの会」の刊行物」と題した口頭発表を、おこなった。

## (5)江戸川乱歩ほか

2021年3月に上記共編著『江戸川乱歩大事典』(勉誠出版)を刊行した。同書は「人間乱歩」「社会」「ミステリー」「メディア」の4部構成となっており、私はおもに「社会」「メディア」を担当した。それとともに、「大衆」「アドバルーン」「平凡社」「光文社」「『中央公論』」の項目を執筆した。

以上のほか、2022年1月には、共著論文「メディア史研究の歩みと課題」(『マス・コミュニケーション研究』第100号)を発表した。同年6月には、「宮崎県」の項目を執筆した石川巧・大原祐治編『占領期の地方総合文芸雑誌事典 下巻 西日本編 滋賀県~沖縄県』(金沢文園閣)が刊行された。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 阪本博志	4. 巻 第53巻第10号
2. 論文標題 「大宅壮一と立花隆 「智的労働の集団化」・大宅文庫と「田中角栄研究」 」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『ユリイカ』2021年9月号	6. 最初と最後の頁 62-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 メディア史研究部会（土屋礼子・阪本博志・白戸健一郎・崔銀姫・原田健一・竹内幸絵・水野剛也・吉本秀子）	4. 巻 第100号
2. 論文標題 「メディア史研究の歩みと課題」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『マス・コミュニケーション研究』	6. 最初と最後の頁 49-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 阪本博志	4. 巻 第51号
2. 論文標題 「大宅壮一『チャナリズム講話』 資料としての雑誌と「智的労働の集団化」 」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『メディア史研究』	6. 最初と最後の頁 89-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阪本博志	4. 巻 第26号
2. 論文標題 「影山三郎とアジア 東京帝国大学在学時と立教大学在職時をつなぐもの 」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『大衆文化』	6. 最初と最後の頁 51-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 1件／うち国際学会 4件）

1. 発表者名 阪本博志
2. 発表標題 「高度成長期の勤労青少年サークル「若い根っこの会」の刊行物
3. 学会等名 第11回「東アジアと同時代日本語文学フォーラム」2023パリ大会（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阪本博志
2. 発表標題 「大宅壮一が遺したもの 「智的労働の集団化」と「人間牧場」
3. 学会等名 日本出版学会雑誌研究部会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阪本博志（企画・司会）
2. 発表標題 ワークショップ「メディア史研究と雑誌アーカイブ 公益財団法人大宅壮一文庫を中心に」
3. 学会等名 日本マス・コミュニケーション学会2021年度春季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阪本博志（企画・発表）
2. 発表標題 パネル発表「雑誌アーカイブを活用した近現代日本文学・文化研究 大宅壮一文庫を中心に」
3. 学会等名 第9回「東アジアと同時代日本語文学フォーラム」2021オンライン大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阪本博志
2. 発表標題 「『平凡』の時代」再考 編集長・清水達夫と報道技術研究会に着眼して」
3. 学会等名 早稲田大学20世紀メディア研究所第150回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阪本博志
2. 発表標題 「出版メディアの「送り手」の戦中と戦後(2) 1950年代の大衆娯楽雑誌『平凡』をめぐって」
3. 学会等名 第7回「東アジアと同時代日本語文学フォーラム」2019台北大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阪本博志
2. 発表標題 「大宅壮一とそのルポルタージュに関する考察」
3. 学会等名 2018年度三田社会学会年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阪本博志
2. 発表標題 「出版メディアの「送り手」の戦中と戦後 大宅壮一『この目で見たソ連』（光文社[カッパ・ブックス]、1962年）をめぐって」
3. 学会等名 第6回「東アジアと同時代日本語文学フォーラム」2018上海大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計23件

1. 著者名 阪本博志・由紀しげ子・志賀直哉・太宰治・李泰俊・大岡昇平・三島由紀夫・林房雄・深沢七郎・水上勉・小島政二郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 皓星社	5. 総ページ数 314
3. 書名 『シリーズ紙礫16 女中』	

1. 著者名 筒井清忠・黒川創・岸俊光・宇野重規・牧野邦昭・藤井淑禎・牧村健一郎・三浦雅士・難波功士・富岡幸一郎・牧野悠・宮内淳子・新保祐司・阪本博志・佐々木秀憲・宮武実知子・福間良明・山本昭宏	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 352
3. 書名 『昭和史講義【戦後文化篇】(上)』	

1. 著者名 筒井清忠・花田史彦・北浦寛之・川本三郎・谷川建司・西村大志・片山杜秀・吉田広明・藤井淑禎・二階堂卓也・神山彰・樋口尚文・萩原由加里・夏目房之介・阪本博志・竹内里欧	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 352
3. 書名 『昭和史講義【戦後文化篇】(下)』	

1. 著者名 石川巧・大原祐治・木田隆文・天野知幸・光石亜由美・斎藤理生・西川貴子・大橋毅彦・信時哲郎・福岡弘彬・中嶋優隆・藤原崇雅・岡村知子・川口隆行・石川偉子・鳥羽耕史・中根隆行・田鎖数馬・坂口博・長野秀樹・野坂昭雄・阪本博志・渡邊英理・我部聖・佐藤泉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 238
3. 書名 『占領期の地方総合文芸雑誌事典 下巻 西日本編 滋賀県～沖縄県』	

1. 著者名 阪本博志（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 257
3. 書名 『大宅壮一文庫解体新書 雑誌図書館の全貌とその研究活用』	

1. 著者名 公益財団法人大宅壮一文庫（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 皓星社	5. 総ページ数 776
3. 書名 『創立50周年記念 大宅壮一文庫所蔵総目録』	

1. 著者名 20世紀メディア研究所	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文生書院	5. 総ページ数 151
3. 書名 『20世紀メディアよもやま話』	

1. 著者名 加藤日出男著阪本博志編・解題	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 246
3. 書名 『「若い根っこ」の生活記録 高度成長期の勤労青年サークル 単行本編』第1巻	

1. 著者名 加藤日出男著阪本博志編・解題	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 282
3. 書名 『「若い根っこ」の生活記録 高度成長期の勤労青年サークル 単行本編』第2巻	

1. 著者名 加藤日出男著阪本博志編・解題	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 266
3. 書名 『「若い根っこ」の生活記録 高度成長期の勤労青年サークル 単行本編』第3巻	

1. 著者名 加藤日出男著阪本博志編・解題	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 213
3. 書名 『「若い根っこ」の生活記録 高度成長期の勤労青年サークル 単行本編』第4巻	

1. 著者名 大宅壮一著阪本博志編・解題	4. 発行年 2020年
2. 出版社 六花出版	5. 総ページ数 238
3. 書名 『編集復刻版 サンデー時評』第1巻	

1. 著者名 大宅壮一著 阪本博志編・解題	4. 発行年 2020年
2. 出版社 六花出版	5. 総ページ数 267
3. 書名 『編集復刻版 サンデー時評』第2巻	

1. 著者名 落合教幸・阪本博志・藤井淑禎・渡辺憲司編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 887
3. 書名 『江戸川乱歩大事典』	

1. 著者名 阪本博志	4. 発行年 2019年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 336
3. 書名 『大宅壮一の「戦後」』	

1. 著者名 鳥羽耕史 / 山本直樹 / 阪本博志 / 角田拓也 / 山崎順子 (訳: 喜田智尊) / 友田義行 / 松山秀明 / 瀬崎圭二 / ジャスティン・ジェスティ (訳: 狩俣真奈) / ナミコ・クニモト (訳: 友添太貴) / 鈴木勝雄 / ケン・ヨンダ (訳: 喜田智尊)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 森話社	5. 総ページ数 352
3. 書名 『転形期のメディアロジー 一九五〇年代日本の芸術とメディアの再編成』	

1. 著者名 影山三郎著 / 阪本博志編・解題	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 312
3. 書名 『朝日新聞家庭面「ひととき」欄の三十年 戦後マスコミ読者論』第1巻	

1. 著者名 影山三郎著 / 阪本博志編・解題	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 312
3. 書名 『朝日新聞家庭面「ひととき」欄の三十年 戦後マスコミ読者論』第2巻	

1. 著者名 影山三郎著 / 阪本博志編・解題	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 48
3. 書名 『朝日新聞家庭面「ひととき」欄の三十年 戦後マスコミ読者論』別巻	

1. 著者名 阪本博志（編・解題）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 337
3. 書名 『高度成長期の 女中 サークル誌 希交会『あさつゆ』』第7巻	

1. 著者名 阪本博志 (編・解題)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 342
3. 書名 『高度成長期の 女中 サークル誌 希交会『あさつゆ』』第8巻	

1. 著者名 阪本博志 (編・解題)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 372
3. 書名 『高度成長期の 女中 サークル誌 希交会『あさつゆ』』別巻第1巻	

1. 著者名 阪本博志 (編・解題)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 355
3. 書名 『高度成長期の 女中 サークル誌 希交会『あさつゆ』』別巻第2巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>researchmap  <a href="https://researchmap.jp/hiroshi1974">https://researchmap.jp/hiroshi1974</a></p> <p>帝京大学ホームページ  <a href="https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.c54d893472833c5f.html">https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.c54d893472833c5f.html</a></p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------